

中之島香雪美術館開館記念展  
「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

Ⅳ ほとけの世界にたゆたう 2018年10月6日(土)～12月2日(日)

公益財団法人香雪美術館は2018年3月21日、大阪・中之島の超高層ビル「中之島フェスティバルタワー・ウエスト」4階に、中之島香雪美術館を開館しました。

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平(1850～1933)の収集した日本と東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。開館45周年を記念し、神戸・御影の本館に次ぐ2番目の美術館を大阪に開設して、コレクションのさらなる公開と普及を進めることとなりました。

開館から1年間は、開館記念展「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」を開催。村山が収集した美術品から、重要文化財をはじめとする選りすぐりの作品300点余りを5期にわけてテーマ別に展示し、コレクションの全容を紹介します。都心のビル内にありながら「市中の山居」を目指した、静謐で格調ある新しい美術館の空間で、珠玉のコレクションをお楽しみください。

第Ⅰ期展「美術を愛して」、第Ⅱ期展「美しき金に心をよせて」、第Ⅲ期展「茶の道にみちびかれ」に続き、10月6日(土)からは第Ⅳ期展「ほとけの世界にたゆたう」がスタートします。

中之島香雪美術館

- |               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| Ⅰ 美術を愛して      | 2018年3月21日(水・祝)～4月22日(日)       |
| Ⅱ 美しき金に心をよせて  | 2018年4月28日(土)～6月24日(日)         |
| Ⅲ 茶の道にみちびかれ   | 2018年7月7日(土)～9月2日(日)           |
| Ⅳ ほとけの世界にたゆたう | 2018年10月6日(土)～12月2日(日)         |
| Ⅴ 物語とうたにあそぶ   | 2018年12月15日(土)～2019年2月11日(月・祝) |

※毎週月曜休館(祝日の場合は翌火曜日)

年末年始 2018年12月29日(土)～2019年1月7日(月) 休館

会場 中之島香雪美術館(大阪市北区中之島3-2-4、中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階)

主催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ

中之島香雪美術館開館記念展  
「珠玉の村山コレクション～愛し、守り、伝えた～」

## IV ほとけの世界にたゆたう

### 村山龍平のいざなう 祈りの海をたゆたう

村山龍平(1850-1933)の美術品収集は、明治20年代の初頭に本格化しました。折しも、明治政府による全国的な文化財調査(臨時全国宝物取調)が行われつつある最中のこと。はじまりを飾るのは仏教美術でした。

仏教美術コレクションは、村山の眼の確かさを雄弁に物語ります。現在でも「名品」と評される作品、他にほとんど類例のない珍しい作品が多いのが特徴です。また、特定のジャンルや画題へのこだわりが見られず、偏りのない収集姿勢を貫きます。まるで実作品をもとに日本の美術を学んでいくかのようです。その精品をまとめたのが豪華図録『玄庵鑑賞』でした。今秋は、村山の収集遍歴をたどりつつ、神仏へ捧げられた祈りの世界をお楽しみいただきます。

※期間中、展示替えがあります。



|      |   |
|------|---|
| 会 期  | 2018年10月6日(土)～12月2日(日)<br>月曜休館(祝日の場合は翌火曜日)<br>前期:10月6日(土)～11月4日(日)<br>後期:11月6日(火)～12月2日(日)  |
| 開館時間 | 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  |
| 料 金  | 一般900(700)円、高大生500(350)円、小中生200(100)円<br>*( )内は前売り(一般のみ)、20名以上の団体料金<br>*前売り券は10月5日まで香雪美術館(御影本館)、中之島香雪美術館、<br>フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。 |
| 主 催  | 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社、朝日放送テレビ   |

\*開館記念展(I～V期)の主要作品180点のカラー図版と解説を収録した図録をミュージアムショップで販売。1部2,500円(税込み)。

Ⅳ期のみどころ

全国宝物調査への協力

村山がなぜ美術品収集を志したのか、その思いを伝える記録は現在のところ確認できていません。その中で、明治21年(1888)から22年にかけて近畿地方を中心に行われた臨時全国宝物取調は、村山コレクションの古層を浮かび上がらせます。「阿弥陀如来・観音菩薩・地藏菩薩像」<sup>Ⓐ</sup>は、地藏の美しい容貌が魅力の作品です。阿弥陀・観音・地藏の組合せという類例の少ない主題であり、臨時全国宝物取調でも重要な作品と認められました。また、明治33年(1900)のパリ万国博覧会には、村山コレクションから3点が出品されました。

幻の豪華図録『玄庵鑑賞』<sup>Ⓐ</sup>

村山が唯一、公刊したコレクション図録は、大正3年(1914)の『玄庵鑑賞』<sup>Ⓐ</sup>です。玄庵は村山の雅号で、「わたしが日々鑑賞している愛蔵の品々」という意味です。仏教美術の名品が、「金剛界八十一尊曼荼羅」<sup>Ⓒ</sup>、「一字金輪曼荼羅」<sup>Ⓓ</sup>などの絵画を中心にまとめられています。巻末には、重要文化財「薬師如来立像」<sup>Ⓔ</sup>や「地藏菩薩立像」<sup>Ⓕ</sup>などの仏像彫刻も数点掲載されています。当時の村山コレクションを明かす決定的な資料ですが、発行部数が僅少だったためか、現在は目にすることが難しい貴重な本となっています。



Ⓐ「阿弥陀如来・観音菩薩・地藏菩薩像」  
(鎌倉時代、13～14世紀)



Ⓐ「玄庵鑑賞」(大正3年 1914)



Ⓒ「金剛界八十一尊曼荼羅」(鎌倉時代、13～14世紀)  
前期:10月6日～11月4日



Ⓓ「一字金輪曼荼羅」(鎌倉時代、13～14世紀)  
後期:11月6日～12月4日

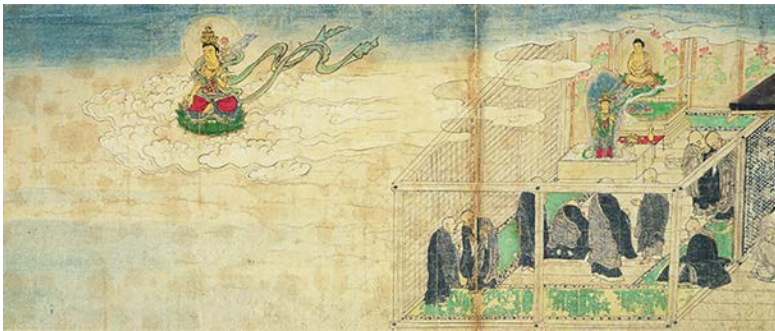
## 村山のみた祈りの海

かつて人々がほとけに向けた祈りの心。それをストレートに伝える説話絵巻や写経も、村山コレクションのみどころの一つです。奈良・興福寺の十一面観音像の物語を描いた「稚児観音縁起絵巻」㊦や、経文を一字一字丁寧に写し、美を尽くして飾った装飾経「法華一品経 如来寿量品」㊧。こうした作品は、趣向を凝らした蒔絵箱に納められ、大切に伝えられてきました。

※期間中、展示替えがあります。



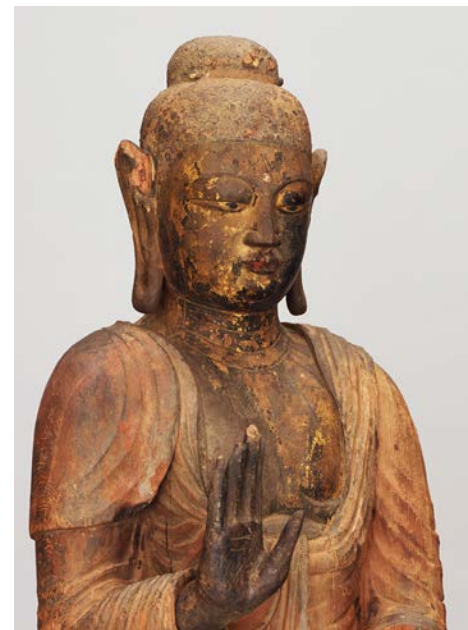
㊦重要文化財「稚児観音縁起絵巻(部分)」(鎌倉～南北朝時代、14世紀) 前期:10月6日～11月4日



㊦重要文化財「稚児観音縁起絵巻(部分)」(鎌倉～南北朝時代、14世紀) 後期:11月6日～12月2日



㊧「法華一品経 如来寿量品」(平安時代、12世紀)



㊨重要文化財「薬師如来立像」(平安時代、9世紀)



㊩「地藏菩薩立像」(鎌倉時代、13世紀)



□「菩薩半跏思惟像」  
(日本または朝鮮、白鳳時代もしくは三国時代、7世紀)



□重要美術品「菩薩立像」(中国、金時代、12世紀)



## 主な出展作品

| 記号 | 指 定   | 作者・生産地 | 作 品 名   | 時 代                      | 展示期間           |
|----|-------|--------|---|--------------------------|----------------|
| A  |       |        | あみだにょらい かんのおんぼくさつ じぞうぼくさつぞう<br>阿弥陀如来・観音菩薩・地藏菩薩像 | 鎌倉時代、13～14世紀             | 全期間            |
| B  |       |        | げんなんかんしょう<br>『玄庵鑑賞』                             | 大正3年(1914)               | 全期間            |
| C  |       |        | こんごうかいほちじゅういつぞんまん だ ら<br>金剛界八十一尊曼荼羅             | 鎌倉時代、13～14世紀             | 前期：10月6日～11月4日 |
| D  |       |        | いちじきんりんまん だ ら<br>一字金輪曼荼羅                        | 鎌倉時代、13～14世紀             | 後期：11月6日～12月2日 |
| E  | 重要文化財 |        | やくし にょらいりゅうぞう<br>薬師如来立像                         | 平安時代、9世紀                 | 全期間            |
| F  |       |        | じぞう ぼくさつりゅうぞう<br>地藏菩薩立像                         | 鎌倉時代、13世紀                | 全期間            |
| G  | 重要文化財 |        | ち ごかんのおんえん ぎ えまき<br>稚児観音縁起絵巻(部分)                | 鎌倉～南北朝時代、14世紀            | 前後期で場面替えあり     |
| H  |       |        | ほっけ いっほんぎょう にょらいじゅうりょうほん<br>法華一品経 如来寿量品         | 平安時代、12世紀                | 全期間            |
| I  |       |        | ぼくさつはんか しゆいぞう<br>菩薩半跏思惟像                        | 日本または朝鮮、白鳳時代もしくは三国時代、7世紀 | 全期間            |
| J  | 重要美術品 |        | ぼくさつりゅうぞう<br>菩薩立像                               | 中国、金時代、12世紀              | 全期間            |

※記号欄(A～J)は貸出写真記号

## 美に寄せる想い——村山龍平記念室（常設展示）

中之島香雪美術館では、<sup>むらやま りょうへい</sup>村山龍平の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりませ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟（<sup>げんなん</sup>玄庵）などの建物と庭園からなる広大な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館の<sup>かわい いくじ</sup>河合幾次、和館書院棟の<sup>ふじい こうじ</sup>藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した<sup>こばやし お</sup>小林義雄は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。



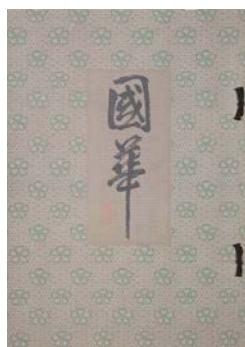
村山龍平



旧村山家住宅



村山龍平記念室 洋館2階居間の再現



国華 創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『国華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『国華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫レ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『国華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

## 中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好みの様式を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好みの三畳台目に相伴席の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をCG加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏が設計・監修し、元禄年間創業の安井壱工務店が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。



茶室「中之島玄庵」



茶室「中之島玄庵」内部

PRESS RELEASE

# 中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

————— 報道関係のお問い合わせ —————

「中之島香雪美術館」 担当:日置 (ひおき)

TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email [n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp](mailto:n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp)

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階



FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

|         |   |           |
|---------|---|-----------|
| 取 材 者   | フリガナ  | フリガナ      |
|         | 会社名   | 担当者名(連絡者) |
|         | 住所 〒  | TEL       |
|         |   | FAX       |
|         | E-mail  | 取材人数<br>名 |
| 取材希望日時  | (西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分  |           |
| 媒 体     | 種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他( )          |           |
|         | 番組名・コーナー名   |           |
| 放送・発行日等 | (西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分  |           |
| 取材の範囲   | 撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC)<br><input type="checkbox"/> しない |           |
| 備 考     | 特に取材したい場所・内容等   |           |

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| 開館記念展<br>作品画像    | 中之島香雪美術館<br>館内画像 |
| 中之島香雪美術館<br>資料画像 | ロゴ画像             |

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。  
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「中之島香雪美術館」 担当:日置(ひおき)  
TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp  
〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階